

株主の皆さまへ

2019年度（第67期）上半期【2019年4月1日～2019年9月30日】



Index

社長メッセージ	1
地域別セグメントの業績（上半期）	3
連結財務諸表	4
FOCUS1	5
FOCUS2	8
トピックス	9
製品紹介	10
会社概要／株式の状況	裏表紙



ご挨拶

株主の皆さまには、日頃より当社グループ事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに、当社グループの事業概況やその取り組み、成果などについてご報告申し上げます。

2019年11月

代表取締役社長 山口 次郎

当上半期の連結業績について

上半期の業績は、中国における受注の増加はありましたが、日本およびアジアにおける自動車部品および二輪部品の受注減少などにより、売上収益は減収となりました。また、利益につきましては、減収に伴う利益の減少はあったものの、ユーエス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国、USY）における生産安定化費用の減少などにより、他拠点からの部品供給費用およびリコール関連費用などの一時費用を計上した前年同期に比べ増益となりました。

通期の業績予想については、米州での減益や下期における減収に伴う利益の減少に加え、予算作成時において法人税等の算出に誤りがあったことなどから見直しております。

法人税等の算出の誤りについては、関連する業務プロセスの再点検を行い、再発防止策を策定し

たうえで、運用を始めております。株主の皆さまにはご心配をおかけしたことに對し、お詫び申し上げます。

なお、中間配当は1株につき8円とし、期末配当予想につきましては11円、年間で19円（計画比0円、前期比3円増配）としております。

生産体質の盤石化に向けて

USYでは、設備トラブルによる稼働率の低下などにより混乱が続いていましたが、昨年度末に安定生産基盤の構築を行い、現在、在庫の適正化も完了し、お客さまへの安定的な供給を続けております。

しかし、現地従業員の相当数が入れ替わったことにより、ライン従事者や設備担当者の習熟遅れ等が顕在化することになりました。このような状

況の中、品質最優先で生産を行った結果、労務費や仕損費においてロスが発生することになり、期初に掲げた目標利益に対し差異が生じるようになりました。

USYについては、品質最優先としながら、引き続き体質向上施策を重ね、今まで以上に健全な生産拠点へ変革してまいります。

ものづくり力の進化

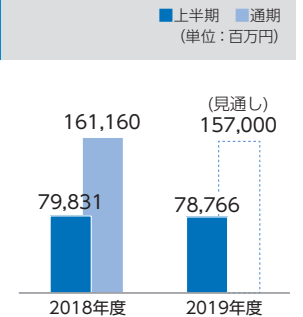
生産体質強化の施策を着実に推進する一方で、開発においては、3Dモデルや解析シミュレーションを活用した効率アップ施策などを進めています。これらの取り組みにより当社のものづくり力を今後さらに進化させ、お客さまのニーズに応える製品を生み出してまいります。

また、製品の種類削減として構成部品の共用化はもとより、自動車メーカーとの連携をより密に行い、製品そのものの流用を提案する試みなども開始しています。燃料タンク、サンルーフに関する開発フローの効率化により、今後強化する新事業に充当するリソースの確保を進め、自動車部品サプライヤーとしてトップレベルのものづくり力実現を目指してまいります。

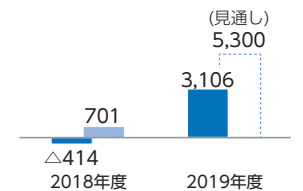
株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社グループへのご理解とともに、一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

連結業績ハイライト

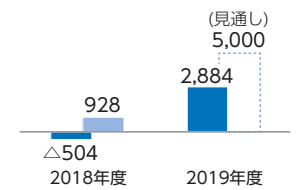
売上収益
78,766
百万円
(前年同期比1.3%減)



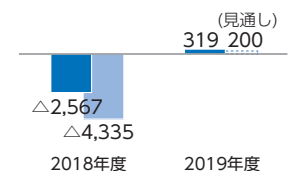
営業利益
3,106
百万円



税引前利益
2,884
百万円



親会社の
所有者に帰属する
当期利益
319
百万円



当社は、国際会計基準に基づいて連結財務諸表を作成しています。2018年4月2日に完成事業を譲渡したことに伴い同事業を非継続事業としており、2018年度の売上収益・営業利益・税引前利益については、同事業の数値を含めていません。

地域別セグメントの業績（上半期）

連結財務諸表

中国

売上収益 19,774百万円
(前年同期比 3,334百万円 増)

税引前四半期利益 3,090百万円
(前年同期比 1,391百万円 増)

連結子会社 2社

- 自動車部品の受注の増加により増収
- 受注の増加や機種構成差などにより増益

日本

売上収益 11,332百万円
(前年同期比 2,795百万円 減)

税引前四半期利益 △2,273百万円
(前年同期比 1,474百万円 減)

連結子会社 3社

- 自動車部品および二輪部品の受注の減少などにより減収減益

米州

売上収益 19,243百万円
(前年同期比 102百万円 増)

税引前四半期利益 △464百万円
(前年同期比 4,310百万円 増)

連結子会社 7社

- 前期におけるメキシコの水害影響からの回復などにより増収
- USY*における生産安定化費用の減少などにより、他拠点からの部品供給費用やリコール関連費用などの一時費用を計上した前年同期に比べ利益改善

※USY…ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド (米国)

アジア

売上収益 28,416百万円
(前年同期比 1,705百万円 減)

税引前四半期利益 2,499百万円
(前年同期比 759百万円 減)

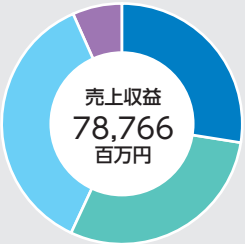
連結子会社 7社

- 二輪部品の受注の減少などにより減収
- 受注の減少や機種構成変化などにより減益

(ご参考) 製品別の売上収益

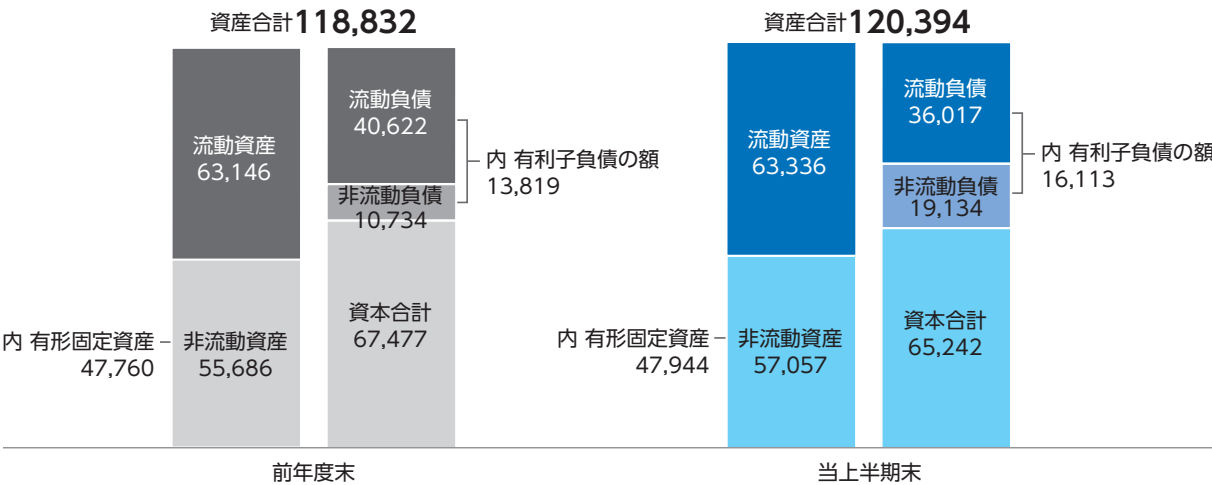
燃料タンク 21,698百万円 (前年同期比 2,944百万円 増)	二輪部品 28,662百万円 (前年同期比 2,394百万円 減)
サンルーフ 23,180百万円 (前年同期比 721百万円 減)	その他 5,226百万円 (前年同期比 894百万円 減)

※その他の内訳：補修パーツ、板金部品、樹脂・塗装など



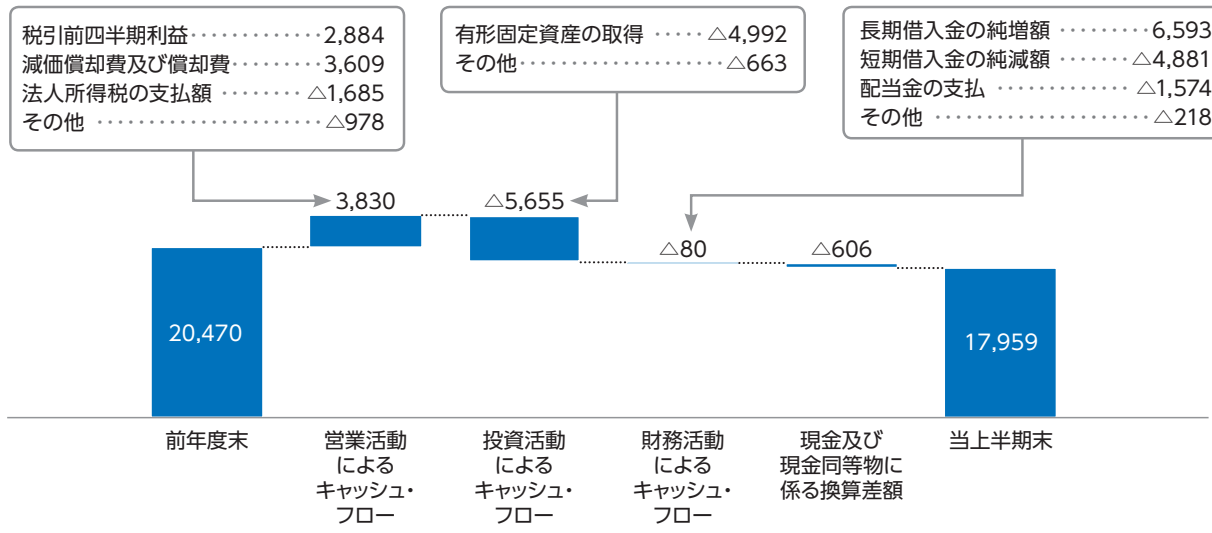
連結財政状態計算書

(単位：百万円)



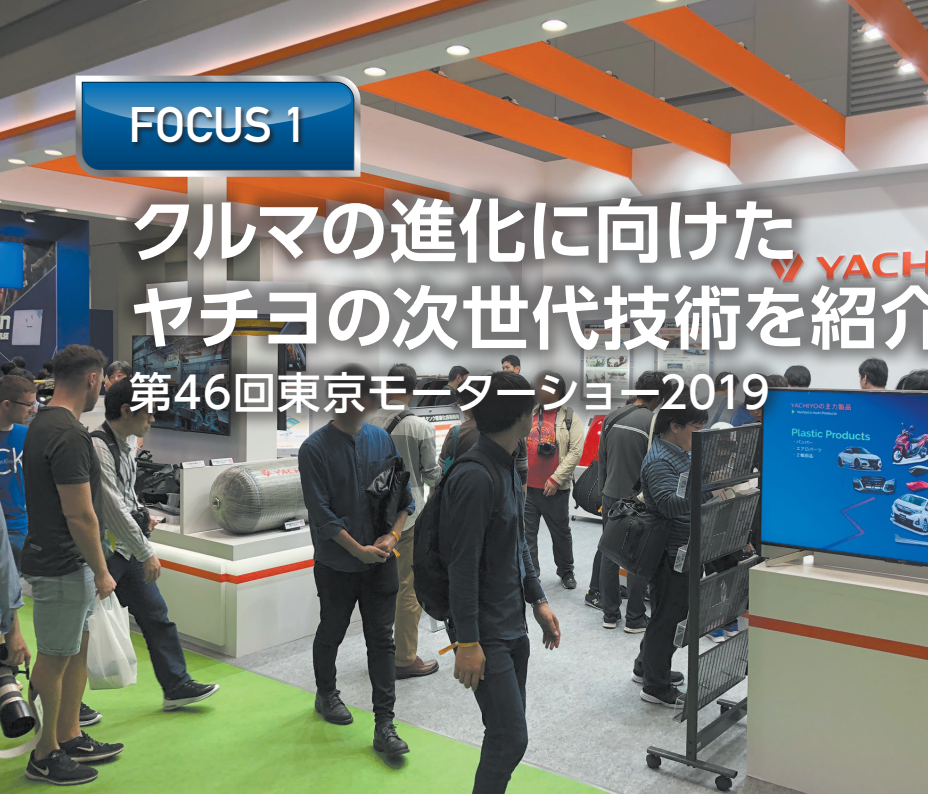
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)



FOCUS 1

クルマの進化に向けた ヤチヨの次世代技術を紹介 第46回東京モーターショー2019



「クルマの未来と笑顔をつなぐ」

今回の東京モーターショーは「OPEN FUTURE」をテーマとし、「未来のモビリティ社会への夢」を見せるショーとして開催されました。

当社は、「Light-Bright」テクノロジーで、クルマの未来と笑顔をつなぐ」をテーマに、燃料タンク、サンルーフ、樹脂製品などを展示し、クルマの進化に貢献し、将来にわたって皆さまに笑顔をお届けする製品と技術を紹介しました。

クルマは、CASE*と呼ばれる進化を遂げようとしています。その中で当社の製品は、特に自動運転および電動化に貢献する技術進化を目指しており、今回のモーターショーでその進化を具現化した製品をご覧いただきました。

*CASE … Connected (コネクテッド)、Autonomous (自動運転)、Shared (シェアリング)、Electric (電動化)

ヤチヨ製品が切り開く未来

燃料タンクでは、世界各地の環境規制に対応する技術や、クルマの電動化の中で引き続き多くを占めるとみられるハイブリッド車に適した技術を紹介しました。また、燃料電池車向けに水素を貯蔵する高圧タンクの開発品も展示しました。

サンルーフでは、乗員に圧倒的な明るさと開放感を提供し、車内空間を魅力的に演出するパノラマサンルーフのフラッグシップモデルの開発品を展示しました。

そして、樹脂製品では、既に量産しているCFRP*製のルーフや陸上競技用車いすを展示するとともに、既存の鉄製より大幅な軽量化を実現した当社オリジナルとなるオール樹脂製のバックドアモジュールの開発品を初めて展示しました。

燃料タンクおよび樹脂製品については、主に電動化

*CFRP … Carbon Fiber Reinforced Plasticsの略 (炭素繊維強化プラスチック)

に伴いバッテリー搭載などで重量が増加するクルマの軽量化技術として、また、サンルーフについては、自動運転化によりクルマをさらに快適な移動空間へと進化させる技術としてお客さまにお披露目しました。

クルマの軽量化に向けた 樹脂モジュール製品の開発を拡大

当社は、1982年に初めてインジェクション成形機を導入して樹脂事業に参入して以来、樹脂製品の成形・塗装の一貫加工技術を蓄積してきました。この技

術を活かし今回開発した樹脂バックドアモジュールは、外装部品に求められる高い意匠性を実現しながら、構成する部品の統合や削減などを行い、樹脂ならではの軽さを活かし、鉄製バックドアと比べて約40%の軽量化を実現しています。

今後、クルマは電動化に伴い、搭載されるバッテリーやモーターにより車体重量が増加するとみられます。そのようなクルマが、実用的に十分な航続距離を得るためには車体の軽量化が必要であり、樹脂はそのニーズに応える中核技術であると考えています。

主力製品（燃料タンク・サンルーフ）の進化

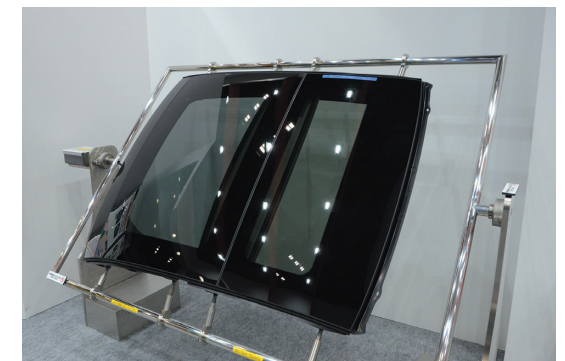


FRTP*による外部補強技術

高圧密閉樹脂製燃料タンク（開発品）

ハイブリッド車の市街地走行は、モーターによる走行が多くなります。そのため、タンク内部の燃料が使用されず長期間留まることで発生する圧力は、タンクの形状を変形させるまでに至ります。今回展示した燃料タンクでは、その圧力変動に耐える強度と樹脂の優位性である軽さを両立する補強技術を実現しました。

*FRTP…Fiber glass Reinforced Thermo plasticsの略。ポリプロピレンなどの熱で柔らかくなる樹脂にガラス繊維を入れて強化した材料。



快適かつ上質感あふれる移動空間を演出

パノラマサンルーフ フラッグシップモデル（開発品）

今回展示したモデルでは、部品の最小化と最適配置により大開口を実現。1ランク上の室内空間や、フロントガラスとの相乗効果により上質な明るさとテラスのような開放感をクルマに付与します。また、クルマのルーフ全体と一体感を持たせる意匠性は、美しい外観も実現します。

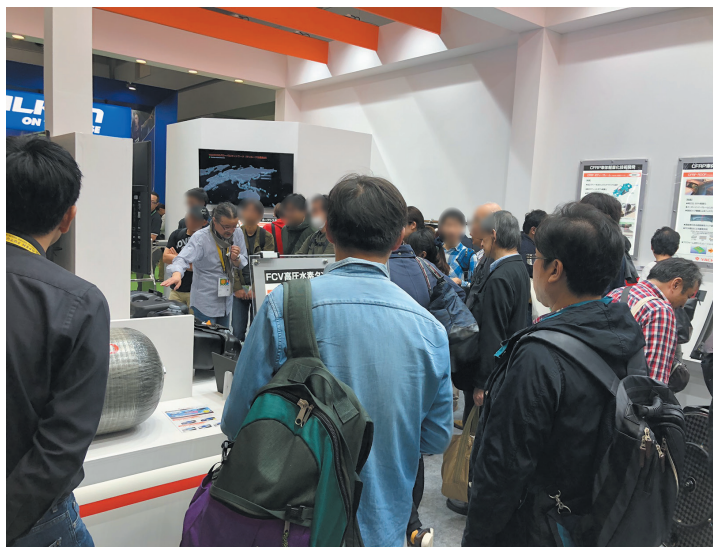


当社は今年6月に発売したHonda S660向けのCFRPルーフにおいて、樹脂製品の一つであるCFRP製品の量産技術も構築しています。今回展示した樹脂バックドアモジュールに採用する量産技術については、2025年の確立を目指しております。当社は樹脂事業を、燃料タンク事業、サンルーフ事業に続く次の柱として発展させ、樹脂モジュール製品を広く自動車メーカーに提案していきます。

未来のモビリティを技術力で支える

今回の東京モーターショーへの出展を通じ、多くのお客さまに当社製品を直接見て、感じていただき、その進化の方向性を理解していただくことができました。

「ものすごく軽い」、「こんなサンルーフが私のクルマにも欲しい」、「さまざまなアイデアが製品のひとつひとつに活かされており感心した」などたくさんのご感想をいただきました。当社は引き続き、クルマの進化を見据えた製品開発と量産化に取り組み、世の中に存在を期待される企業として成長を続け、世界中のお客さまへ笑顔と喜びをお届けしてまいります。



東京モーターショーでは、自動車評論家が自動車部品技術の説明をするツアーが開催され、当社の高圧密閉樹脂製燃料タンクが電動化技術として、また、樹脂バックドアモジュールが軽量化技術として取り上げられました。



FOCUS 2

マルチ・スズキ・インドア社の 小型SUVに樹脂製燃料タンクが採用



インド最大手の自動車メーカーと 取り引きをスタート

2019年9月30日にスズキ株式会社のインド子会社マルチ・スズキ・インドア社（マルチ・スズキ社）から発売された新型の小型SUV「S-PRESSO（エスプレッソ）」に、当社製の燃料タンクが採用されました。

採用された製品は、燃料の蒸散を抑える4種6層構造を用いた環境に配慮した樹脂製の燃料タンクです。生産はヤチヨ インディア マニュファクチャリング プライベート リミテッド（インド、YIM）で行います。

マルチ・スズキ社は、今後も自動車市場の拡大が期待されるインドにおいて、販売シェア51.2%（2018年度）を占める最大手の自動車メーカーです。

今回の取り引き開始により、YIMの燃料タンク生産台数は大幅に増加する見込みであり、さらなる生産能力拡大に向け、現在、建屋拡張工事を進めており、2021年の完成を予定しています。



ニーズに応える技術力で販路を拡大

当社は、従来技術を用いた廉価なタンクや環境規制に対応したタンク、ハイブリッド車に適した高圧密閉タンクなど、樹脂製燃料タンクに求められるさまざまな技術を活かし、今後も世界各地のお客さまのニーズにお応えし、販路を拡大していきます。

ブラジルの生産拠点が設立10周年

当社のブラジル生産拠点であるヤチョ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ(YBI)は、2019年9月をもって設立10周年を迎えました。

2009年に南米初の生産拠点として設立し、2014年に品質に関する国際規格であるISO/TS16949を取得、2017年にはHondaからQ (品質) D (搬入) の実績に対するサプライヤーアワードを受賞するなど、YBIの生産活動や取り組みは高い評価を得てきました。

今回10周年を迎えるにあたり、YBIでは従業員とその家族で記念パーティーを開催し、これまでの10年を振り返るとともに労をねぎらい、次の10年に向けて邁進していくことを誓いました。

今後もブラジルの地で、継続的な成長と地域社会との共存共栄に努めていきます。



インドネシアの生産拠点が累計生産台数100万台を達成

当社のインドネシア生産拠点であるピー ティー ヤチョ トリミトラ インドネシア (YTI) は、2019年10月に樹脂製燃料タンクの累計生産台数100万台を達成しました。

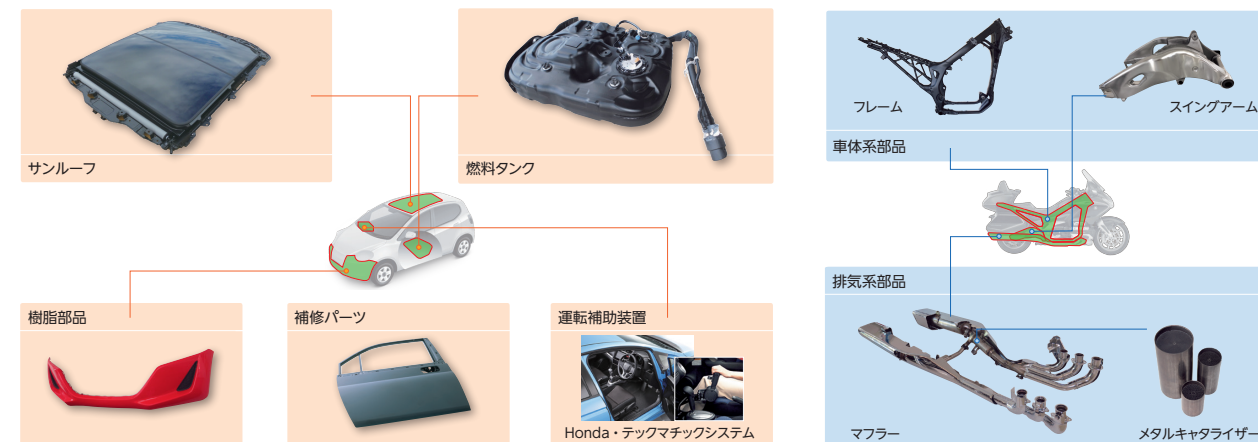
2012年設立当時のインドネシアは、中国、ベトナムに次ぐ世界第3位の二輪車市場であった一方、自動車の販売台数はバイクの10分の1という市場でした。2013年7月に当社が初めて自動車用燃料タンクのインドネシアでの生産を開始し、6年3カ月で累計生産100万台を達成しました。

記念式典では従業員全員で映像によりこれまでの足跡を振り返り、喜びを分かち合いました。また、これまで以上に団結し、会社を発展させていくことを誓いました。

YTIは今回の100万台達成をマイルストーンに、今後もお客さまに喜んでいただける製品づくりに取り組んでいきます。



主な製品



製品特集

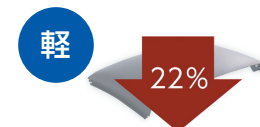
軽さと美しさを追求したHonda S660用CFRPルーフを2019年6月27日に発売



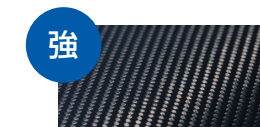
商品紹介・
販売サイト



- ✓ 企画、開発、製造、販売のすべてを自社完結
- ✓ 量産技術であるPCM工法^{※1}を用いて生産
- ✓ 塗装、樹脂成形、板金成形などこれまで培ってきた技術を応用
- ✓ CFRPのCAE^{※2}解析や設計技術など独自の開発力で商品化



純正のロールトップから、22%の軽量化。ドライバーひとりで着脱できる軽さを実現。



カーボン材料の特性を活かしたインナーフレーム構造により、高い剛性を実現。



ヤチョオリジナルのロック機構と断面効率のよいインナーフレーム構造により、室内空間を広げます。



外装面に光沢クリア塗装(3コート3ベーク)を施し、カーボンの美しさを引き出すことにこだわりました。

^{※1} PCM工法…Prepreg Compression Molding 工法 (プレス機の圧縮により、プリプレグと呼ばれる樹脂を含浸させたシート状の炭素繊維中間基材を加熱硬化させて、成形する製造方法)
^{※2} CAE…Computer Aided Engineering (コンピューターを活用した設計技術)

会社概要／株式の状況 (2019年9月30日現在)

会社概要

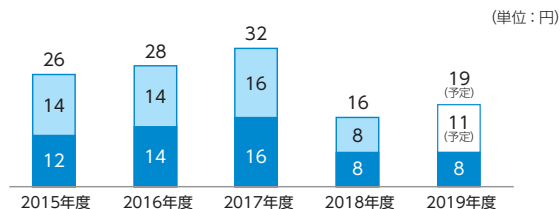
社名	八千代工業株式会社
英文社名	Yachiyo Industry Co., Ltd.
設立	1953年8月27日
資本金	3,685,600,000円
従業員数	単独 877名 連結 7,157名
本社	〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地 04-2955-1211(代表)

役員

代表取締役社長	山口 次郎	監査役	富永 和也
代表取締役専務取締役	藤本 朋宏	監査役	山室 恵
代表取締役専務取締役	加藤 憲嗣	監査役	村松 昌信
常務取締役	北村 哲也	常務執行役員	木原 浩之
常務取締役	安田 哲	常務執行役員	栗原 貞幸
取締役	松原 美樹	常務執行役員	長谷川吉保
取締役	横瀬 勉	常務執行役員	堀田 貢市
監査役(常勤)	根岸 昭雄	常務執行役員	三島 清憲

(注.1) 横瀬 勉氏は、「会社法」第2条第15号に定める社外取締役です。
(注.2) 富永 和也氏、山室 恵氏および村松 昌信氏は、社外監査役です。

配当金の推移



当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、世界的視野に立って事業を展開し、企業価値の向上に努めております。

成果の配分にあたりましては、今後の資金需要などを総合的に考慮し、配当につきましては、長期的な視点に立ち連結業績を考慮しながら実施することを方針としております。

株式の状況

発行可能株式総数	70,000,000株
発行済株式の総数	24,042,700株
株主総数	2,917名

大株主の状況

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
本田技研工業株式会社	12,103	50.41
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライスド ストック ファンド(プリンシパル オール セクター サポートフォリオ)(常任 代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	887	3.70
大竹好子	769	3.20
株式会社三井住友銀行	457	1.90
埼玉車体株式会社	438	1.82
株式会社三菱UFJ銀行	350	1.46
大竹譲司	341	1.42
八千代工業従業員持株会	336	1.40
大竹隆之	333	1.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	331	1.38

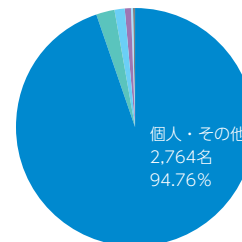
(注.1) 持株比率は、自己株式を控除して計算しています。

(注.2) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数は全て信託業務に係る株式です。

所有者別株式の分布状況

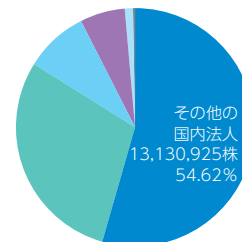
株主数および比率 (合計2,917名)

■外国人	78名	2.67%
■その他の国内法人	40名	1.37%
■証券会社	24名	0.82%
■金融機関	10名	0.35%
■自己名義	1名	0.03%



株式数および比率 (合計24,042,700株)

■個人・その他	7,066,875株	29.39%
■外国人	2,072,768株	8.62%
■金融機関	1,460,600株	6.08%
■証券会社	282,157株	1.17%
■自己名義	29,375株	0.12%



八千代工業株式会社

埼玉県狭山市柏原393番地

電話04 - 2955 - 1211 (代表)

<http://www.yachiyo-ind.co.jp/>

